



Title	京都方言話者のLINEのことば：親しい友人とのLINEチャットにおけるスタイル切り替えに着目して
Author(s)	長谷川, 京里
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2024, 20, p. 43-68
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100650
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

京都方言話者の LINE のことば —親しい友人との LINE チャットにおけるスタイル切り換えに着目して—

長谷川 京里

【要旨】

本研究は、若年層京都方言話者 XKD が、親しい友人との LINE において、方言と標準語、普通体と丁寧体をどのように切り換えているかに注目し、会話相手と発話内容という 2 つの観点からことばの使用実態を記述したものである。調査の結果、XKD は基本的に LINE で京阪方言と普通体を用いることが分かった。ただし、(1) 「ネ・サ・ヨ・ナイ」を含む特定の形式や、(2) 会話相手が標準語話者の場合、(3) 発話内容が引用・冗談・感想・願望・打ち明け・懸念・確認・感謝・同意の場合に標準語への切り換えが起きた。また、丁寧体は発話内容が依頼・勧誘・質問・褒め・申し出・報告・謝罪・冗談・感謝の場合に用いられた。そして、発話内容による切り換えの分析から、(a) 京阪方言は方言話者として愉快にやり取りできることば、(b) 標準語は文字から伝わる感情を抑え、きつく聞こえやすい発話を和らげることば、(c) 丁寧語は発話の丁寧度を上げ、深刻な発話の印象を軽くすることば、というように、XKD は別の役割を持つ 3 つのスタイルを切り換えながら LINE 上でやり取りを行っていると考察した。

【キーワード】LINE チャット、スタイル切り換え、アップシフト、文章語、京阪方言

1. はじめに

本研究は、若年層京都方言話者を対象に、親しい友人との LINE チャットにおけることばの実態を記述し、文字によるカジュアルなコミュニケーションにおいてことばがどのように切り換えられているかを明らかにすることを目的としている。三宅（2018）によると、現代は「「話すことば」のような「書きことば」」が日常のコミュニケーションの中心になりつつあり、SNS をはじめとする電子メディアにおいて気軽に方言が使えるようになった時代である。そして、若者の日常のコミュニケーションに欠かせない LINE においても方言使用は頻繁に見られる現象だと述べられていた。また、田中（2011）も、携帯メールや SNS などの「打ちことば」によるコミュニケーションにおいては、親密な間柄でやりとりを行うために話すことばに近いくだけた文体が現れやすいとしており、「くだけた話すことば」らしさを表現するのに、「方言」が非常に効果的な素材であると述べていた。

京都方言話者の筆者の LINE のトーク履歴にも以下の (1) のような方言使用がよく観察される。また、(2) のような標準語や (3) のような丁寧語も一定の使用が見られる。

(1) [方言使用例] (映画を見に行く日とサークルの練習時間について)

1 AKD：じゅあ 26 はやめとくか！

→2 XKD：ごめん 6 時間の練習の後に映画見て起きれる自信ないねん

3 AKD：6 時間ってえぐいな笑

→4 XKD：えぐいよな笑まあ楽しいから全然ええねんけどな笑

(2) [標準語使用例]

(テストについて。直前で XKD は BKD に旅行先で行く店を提案していた)

1 BKD：調べてくれてありがと！行っちゃお！

→2 XKD：調べることが勉強の息抜きになってるから全然いい笑

→3 XKD：勉強したくないテスト嫌だね

4 BKD：嫌だねえ.....

(3) [丁寧語使用例] (サークルの練習場所に一緒に行くことについて)

→1 XKD：私ずっと図書館にいるんですけど、体育館までトウギャザーしません????

2 CSL：とうぎやざる！

3 CSL：何時に行けばいい？

4 XKD：17:25 の石橋発乗ろうかなと思ってる！

本稿では、親しい友人との LINE 上のやり取りにおいて、若年層の方言話者が方言・標準語・丁寧語を用いる上記の (1) ~ (3) のような発話を研究対象とする。方言話者が方言、標準語、丁寧語を LINE 上でどのように使用しているのかについて、方言と標準語の切り換え、普通体と丁寧体の切り換えという 2 つの観点から明らかにしていく。本論文では、以下、2 節で先行研究と問題のありかを述べ、3 節で調査の概要をまとめ。続く 4 節で調査結果に基づく標準語使用、5 節で標準語と方言の切り換え、6 節で普通体と丁寧体の切り換えを取り上げ、7 節で考察を提示し、8 節でまとめと今後の課題を述べる。

2. 先行研究と問題のありか

本節では、「打ちことば」によるコミュニケーションに関する先行研究として、2.1 節で白坂 (2017) の大阪方言話者の携帯メールにおける方言使用の研究、2.2 節で三宅 (2018) の大学生の SNS における方言使用意識に関する研究を示す。続く 2.3 節で親しい友人間でのアップシフトに関する大津 (2004) と橋谷 (2018) の研究、2.4 節で渋谷 (2022) のスタイル切り換えに関する研究を参照し、2.5 節で問題のありかについて述べる。

2.1. 携帯メールにおける方言使用の先行研究

白坂 (2017) は、50 代後半の大坂方言話者の女性の携帯メールにおける標準語と方言の使用実態を記述した。親しい人物 8 名とやり取りしたメールのことばと、8 名それぞれと 1 対 1 で電話で行った自由会話とを比較する調査を実施した結果、方言話者の携帯メールのことばは電話のことばと共通した形式がある一方で、以下の 3 つの特徴が確認できた。

- ・ 親しい人にも丁寧形「デス」の使用が多く見られ、丁寧形と共に使うことができる標準語形の終助詞「ヨ」「ネ」の使用が目立つ。
- ・ 否定辞「ズ」や原因・理由の接続助詞「ノデ」など、話しことばではありませんり使用しない文章語性の高い形式をまぜることもある。
- ・ 方言形の使用は抑えられるが、方言形コピュラ「ヤ」や終助詞「ワ」「デ」、否定辞

「(へ)ン」などの項目では、身内が相手の場合を中心に使用しないわけではない。以上のことから、白坂は携帯メールのことばは、話しことばをそのままつしとったものでも、また、従来の書きことばを転用したものではなく、話しことばと従来の書きことばの両方の要素を取り込みつつ、携帯メール独自の変種を創り出していると結論づけた。

2.2. SNS における方言使用の先行研究

続いて、SNS 上の若年層の方言使用について、三宅（2018）は、東京都の大学生 18~22 歳の 57 名（うち方言話者 9 名）を調査対象として、SNS 上での方言やエセ方言（生育地ではない方言）の使用実態と使用意識に関する WEB アンケート調査を行った。その結果、方言話者が「自分らしさ」「親しさ」の表象として SNS で自身の方言を使い、親しい相手には同郷でなくとも方言を用いることが分かった。そして、方言使用によってもたらされる「親しさ」「楽しさ」といった効果を活かして、人間関係を保持・促進していると結論づけていた。

2.3. 親しい友人間でのアップシフトの先行研究

親しい友人間でのアップシフトについて、まず、大津（2004）では、東海地方出身の 20 代女性の 2 人きりの会話を 9 組分録音し、冗談として丁寧体にシフトした場面を分析した。結果、アップシフトは、話し手が当該の会話場面にはない要素（別人・他場面）を聞き手にイメージさせることで、発話にユーモラスな意味を与えることが分かった。

大津（2004）が話しことばのアップシフトを扱ったのに対して、関西方言話者の親しい友人ととの LINE 上のアップシフトをポライトネスの観点から捉えようとしたのが橋谷（2018）である。橋谷は、敬語が観察された LINE 上のやり取りを 20 代前半の友人から収集し、依頼、申し出・約束、了解、感謝、質問、挨拶、報告、謝罪、勧誘の 9 場面に分類した。中でも特に多く見られた、依頼、申し出・約束、了解場面の発話について、依頼場面では相手に与える負担度に応じて丁寧度を調節していることや、申し出・約束場面では相手の負担やネガティブフェイスの侵害を軽減するためにアップシフトすることが分かった。また、了解場面では丁寧度を下げて、相手に冷淡な印象を与えない工夫をしていることを明らかにした。

2.4. スタイル切り換えに関する先行研究

最後に、スタイル切り換えに関する研究として渋谷（2022）を挙げる。渋谷は、近世後期の江戸で生活した山東京伝と曲亭馬琴の言語能力・スタイル運用の実態や、当時の文法の社会的、機能的な性質を記述した。その上で、文章語には、もともと文章語で使用された形式と共に、かつて口頭語で使用されつつもその後使用されなくなった形式も潜在的スタイルとしてストックされることを明らかにした。このことは、現代の標準語にも通じ、標準語は日常語や口頭語では使用されない様々な形式が余剰的にストックされたオープンエンドの体系であると述べていた。そこには、文章語では発信者と受信者との間で情報伝達が可能である範囲において多様化に向かう力が相対的に強いことが関わっているとしていた。

2.5. 問題のありか

会話のスピードや話題の並列性など、LINE 上の会話の特徴を分析した研究は数多く存在する一方、携帯メールでの方言使用や、LINE 上の方言・アップシフトに関する研究は少ない。また、以上見たように、方言話者の SNS 上のことばに関する研究は、標準語と方言の切り換え、あるいは普通体と丁寧体の切り換えのどちらかのみを扱っていた。しかし、1 節の例 (1) ~ (3) のように、方言話者は LINE 上で方言と標準語の切り換えに加えて、アップシフトも同時に行うなど、方言・標準語・丁寧語の 3 つのスタイルを絡み合わせて用いている。このような、文字によるやり取りにおける方言話者のことばについては、さらに成果を蓄積する必要があり、そのため本研究では、一人の京都方言話者を例に、LINE 上の方言と標準語の切り換えと、普通体と丁寧体の切り換えの両方に着目し、以下を研究の目的とする。

- (a) 京都方言話者が、友人との LINE チャット上で、方言・標準語・丁寧語をどのように使用しているのかについて、データに基づき実証的に記述する。
- (b) 上のことばの実態の記述から、方言・標準語・丁寧体の 3 つのスタイルをどのような役割で切り換えているのか、京都方言話者にとっての各スタイルの役割・効果を示す。

3. 調査デザインの検討と調査概要

本節では、まず 3.1 節で調査のデザインを検討し、そのデザインに基づいた調査対象者を 3.2 節で、調査方法を 3.3 節で記述する。

3.1. 調査デザインの検討

村上（2018）は、高校時代に LINE デビューした 2012 年大学入学の世代を「リアル LINE 世代」と呼んでおり、その世代を境に LINE 上の会話に顕著な違いがあると述べている。これを参考に、本研究では、2019 年大学入学の女性 XKD（筆者本人）と親しい友人と LINE 上のやり取りをデータとする。筆者本人のデータを用いる理由は、以下の通りである。先行研究のように他人のチャットを調査対象とする場合、会話内容の私的さから、会話の一場面をスクリーンショットしたものを集めるなどの方法を探るしかなく、LINE 上のやり取りの全体像を把握するのが困難であった。一方で、筆者自身を調査対象とする場合はデータ収集が容易な上、筆者と複数人の相手とのあらゆる場面での会話が分析可能となるため、スタイル切り換えの実態を明らかにするという本研究の目的を達成することができる。また、筆者自身のデータであるとはいえ、こうした研究に関心をもつ以前のチャットを扱うことから、客観的に分析できると判断した。

なお、本稿では、宇田（2017）を参考に、「方言」を地域的差異のある言語要素を含むことば、「標準語」を東京で話されていることばを基盤として全国共通の言語要素も含むことば、これらのことばを普段の会話で使用していると XKD が認識する人物をそれぞれ「方言話者」「標準語話者」とする。また、会話相手や場面に応じて使用することばを切り換えることを「スタイル切り換え」と定義し、京都方言と大阪方言をまとめて「京阪方言」と呼ぶ。

3.2. 調査対象者

XKDとLINE上の会話相手の情報は以下の表1の通りである。表中の各発話者の主な使用方言の欄には、AKD、BKD、CSL それぞれが普段使用しているとXKDが認識する方言と、AKD、BKD、CSL それが普段の会話で自身が用いると認識している方言の両方を記載する。なお、会話相手3名からはLINEのデータを本研究で使用することについて了承を得ている。

表1 会話相手の情報

ID	年齢	性別	XKDとの 関係性	居住歴	主な使用方言	
					XKDの認識	相手の認識
XKD	22	女性	/	0-現在：京都府京都市	京都方言	/
AKD	22	女性	友人 (中学校～)	0-3：大阪府箕面市、3-6：大阪府吹田市 6-18：京都府八幡市、18-現在：京都府木津川市	京都方言	京都方言
BKD	21	女性	友人 (中学校～)	0-現在：大阪府大阪市	大阪方言	大阪方言
CSL	23	女性	友人 (大学～)	0-4：海外、4-19：神奈川県小田原市 19-現在：大阪府箕面市	標準語	標準語

IDのコードは、筆者をX、会話相手をA・B・Cとし、京阪方言話者についてはKeihan Dialect (KD)、標準語話者についてはStandard Language (SD) の頭文字の略を繋げて表す。

3.3. 調査方法

本調査では、2019年5月～2021年3月の期間に行われた、XKDと会話相手AKD・BKD・CSL それぞれ合計1000発話のLINEのやり取りをデータとする。1000発話と定めたのは、最もやり取りの少ないBKDとの全発話が1000に近いことから、対AKD、対BKD、対CSL それぞれの会話のデータ量を揃えるためである。データの概要を以下の表2に示す。

表2 XKDと各会話相手の発話のデータ

会話相手	発話数			発話を行った期間
	XKD	会話相手	合計数	
AKD	532	468	1000	2020年12月～2021年3月
BKD	515	485	1000	2019年5月～2021年3月
CSL	546	454	1000	2021年1月～2021年3月

なお、本稿での「発話」とは、三宅（2019）を参考に、熊谷・篠崎（2006）の「機能的要素」と同義とし、呼びかけ、説明など相手に対する働きの機能を担った発話単位を指すこととする。下記の(4)のように1発話を取り出す。(4)は4発話の言語行動である。

- (4) 今日ちょっとしんどいなと思ってたんやけど<①背景説明> さっき熱測ったら38度やった 汗汗汗 <②現状報告> ほんまにごめん <③謝罪> 今日キャンセルでも良い? 汗汗汗 <④依頼>

なお、例文を挙げる際には、LINEの画面の吹き出し1つの中の発話を1行で示す。

3.4. 調査項目

本調査では、白坂（2017）・上林（2020）を参考に、以下の表3の9つの項目を分析項目とする。表の項目を対象にしたのは、類似の意味を担う形式が複数あり、それらが「標準語形一方言形」という対立を持つ上、用例が一定数得られたからである。また、「親しい人にも丁寧形『デス』を使用する」という白坂（2017）の携帯メールの記述に基づき、LINE上の丁寧体使用も確かめるため、「デス」「マス」も分析項目と定め、「デス」と対応する普通体の名詞・形容詞・形容動詞、「マス」と対応する普通体の動詞と比較しながら分析する。

表3 調査項目¹⁾

	標準語形	京阪方言形
断定形式	ダ系	ヤ系
接続詞	ダ系	ヤ系
動詞否定形式	ナイ	ヘン・ヒン・ン
否定疑問形式	ジャン・ジャナイ	ヤン(カ)・チャウ(カ)
推量形式	デショ・ダロ	ヤロ
文末形式	ヨネ	ヤンナ・ヤンネ・ヨナ
ノダ相当形式	ンダ	ンヤ・ネン・テン
間投助詞	ネ・サ	ナ
終助詞	ヨ・ネ	デ・ナ・ワ

また、本データ内ではスタンプが要因のスタイル切り換えはなかった上、スタンプに付随する文字は筆者や会話相手が産出したものではないため、調査対象から除くこととする。

以下、本研究ではXKDの普段の使用方言ではない、標準語と丁寧語の使用理由や使用効果についての記述を試みる。例文においては標準語と丁寧語の使用箇所に注目されたい。

4. 標準語の使用

本節では、標準語使用について、まず4.1節で各調査項目の使用状況をまとめ、続く4.2節で、話しことばでは方言だがLINE上では標準語を用いる定型的な表現について記述する。

4.1. 調査項目の全体的な使用状況

まず、XKDの全会話相手に対する調査項目の使用数を標準語形・京阪方言形に分け、使用割合をまとめたのが図1、各項目の詳しい使用状況を記載したのが以下の表4である。

1) 白坂（2017）・上林（2020）の分析項目に加え、本研究では松丸（2007）を参考に、標準語形「ヨネ」と対応する方言形の「ヤンナ・ヨナ」を新たに設定する。また、高木（2004）によると、関西若年層では、「～ている・～てある」の否定は方言形「(～シ) テヘン」ではなく、標準語形「(～シ) テナイ」を多く用いる。ここから、両者にバリエーション関係ではなく、本研究のデータでも「(～シ) テヘン」は使われなかつたため、「(～シ) テナイ」の形での「ナイ」は調査対象から省く。なお、鳥谷（2015）は関西若年層の否定形式「～ヤン」の広がりを指摘したが、XKD・AKD・BKDの使用形式ではないため、取り扱わない。

京都方言話者の LINE のことば

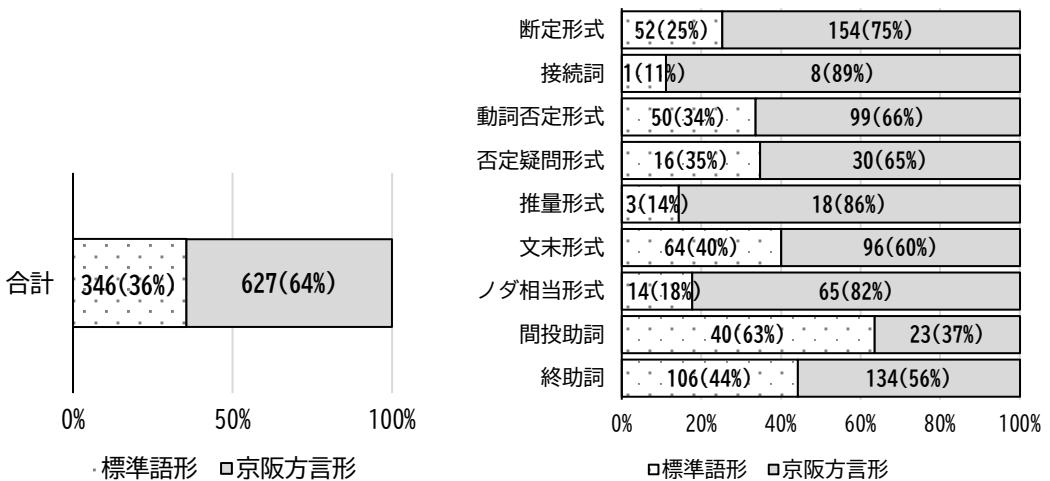


図 1 XKD の調査項目の全体的な使用状況

表 4 XKD の各調査項目の使用状況

会話相手		対AKD		対BKD		対CSL		XKDの使用 合計数
発話者		XKD	AKD	XKD	BKD	XKD	CSL	
断定形式	ダ系	7	5	12	5	33	56	52
	ヤ系	61	48	49	45	44	6	154
接続詞	ダ系	0	0	0	0	1	1	1
	ヤ系	5	1	1	1	2	0	8
動詞否定形式	ナイ	12	9	11	6	27	21	50
	ヘン・ヒン ン	4 27	5 24	4 21	6 13	6 37	1 9	14 85
否定疑問形式	ジャン	0	0	0	0	2	4	2
	ジャナイ	5	1	4	4	5	5	14
	ヤン(カ)	10	12	12	13	7	5	29
	チャウ(カ)	0	2	1	1	0	0	1
推量形式	デショ	0	0	0	0	3	1	3
	ダロ	0	0	0	0	0	3	0
	ヤロ	11	7	2	7	5	1	18
文末形式	ヨネ	23	10	14	6	27	22	64
	ヤンナ・ヤンネ	5	2	6	6	3	0	14
	ヨナ	36	22	24	17	22	4	82
ノダ相当形式	ンダ	4	0	5	1	5	19	14
	ンヤ	12	17	6	5	10	5	28
	ネン	18	11	9	20	5	2	32
	テン	1	4	2	6	2	0	5
間投助詞	ネ	3	0	4	1	3	3	10
	サ	20	11	4	1	6	2	30
	ナ	12	7	5	5	6	2	23
終助詞	ヨ	9	8	16	17	18	19	43
	ネ	14	7	13	20	36	33	63
	ナ	34	33	26	23	26	13	86
	ワ	21	23	4	7	7	3	32
	デ	7	8	5	4	4	2	16

以上の結果から、XKD の調査項目の使用状況についてまとめる。まず、全体的な標準語形の使用割合が 36%、京阪方言形の使用割合が約 64%であることと（図 1 左）、間投助詞を除く全ての調査項目で京阪方言形の使用が標準語形の使用を上回っていたことから（図 1 右・表 4）、京都方言話者 XKD は親しい友人との LINEにおいて基本的に京阪方言を用いてコミュニケーションを取っていることが分かる。XKD が京阪方言形を用いる会話は以下の（5）～（7）の通りである。以下、本稿で例文を挙げる際は、方言に点線、標準語に実線、丁寧語に波線を引き²⁾、注目すべき XKD の発話の発話番号の前に「→」を記す。

（5）（共通の友人の誕生日プレゼントについて）

1 AKD：プレゼント買わなあかんやん

→2 XKD：買わんでいいんちやう笑笑

3 XKD：正味買う時間ない笑笑

（6）（遊ぶ場所について）

→1 XKD：30 どうや！！！

2 BKD：いける！ニヤニヤ

3 BKD：どこで会う？

→4 XKD：17 時からバイトやから京都やと嬉しい😭

（7）（サークルの練習場所に着く時間について）

1 XKD：練習前振り確認してくれたらうれびー

2 CSL：おけみ

3 CSL：今日 4 限？

→4 XKD：結局 4 限のやつ取らんことにしたねん！もう電車乗った！

ただし、調査結果からは一定の標準語使用が見られた。そこには、話すことばでは方言だが LINE では標準語を用いるといった話すことばと LINE の切り換えと、相手や話題に応じて標準語を選ぶという LINE 内部での切り換えがある。次節では前者を、後者は 5 節で記述する。

4.2. 前接する語句との繋がりやすさや変換のしやすさによる標準語使用

本節では、話すことばでは方言だが LINE 上では必ず標準語を用いる言語項目を取り扱う。ここには前接する語句との繋がりやすさや変換のしやすさが関わっており、「ネ」「サ」「ヨ」「ナイ」に定型的な標準語使用が見られたため、それぞれ 4.2.1 項～4.2.4 項で記述する。

4.2.1. 「ネ」

まず、「ネ」について、間投助詞に関する大江（2017）の記述を参考に、（A）節の従属度に制約されず、文節末に比較的自由に付く間投助詞用法、（B）「ネ」単独で同意を示す間投用法、（C）主節・引用節以外の節には現れず、文末に現れる終助詞用法に分けて記述する。

2) 本研究で分析対象としている言語項目にだけ線を付す。

(A) 間投助詞用法

まず、間投助詞用法では、(8) のように「けど+標準語形ネ」の形で使用がよく見られた。

(8) まあお金は欲しいからバイト行くけどね、お客様は来て欲しくないよな笑

「けど+方言形ナ」の形でも以下の (9) のような使用が見られたが、標準語形「ネ」の場合は間投助詞を使用した文節の後も自分の発話をそのまま続けていたのに対し、「ナ」は全て文末で用いられ、発話後は会話相手にターンが移るという違いが見られた。

(9) 多分この時1番よかった席やとは思うねんけどな笑

(B) 間投用法

次に、「ネ」の間投用法について、以下の (10) のように、会話相手の発言に「ネ」単独で同意を示す使用が見られた。一方、方言形の「ナ」一字での同様の使用は見られなかった。

(10) AKD : A に春休みの話きいた！たのしみ！

XKD : ね！いい企画考えた私天才👉笑

(A は共通の友人)

(C) 終助詞用法

最後に、「ネ」の終助詞用法には、「ごめん+ネ」の形や、「ああなるほどね」の略である「あーネ」の使用が確認できた。これらにも方言形「ナ」を使用する形式は見られなかった。

4.2.2. 「サ」

続いて間投助詞「サ」も、「ネ」と同様、(11) のような「けど+サ」の形が多く見られた。

(11) コロナ大変な1年やったけどさ、なんだかんだ頑張ったし楽しかったなって思
わせてくれました

また、「サ」は「から」の後にもよく接続し、以下の (12) のような使用が見られた。「けどナ」と同様、方言形「からナ」も (13) のように使用され、間投助詞の後も自身の発話を続ける場合は「サ」、発話の文末にくるのが「ナ」という使い分けが見られた。

(12) 今年入ったらすぐ20歳になるもんと思ってたからさ、まだ19なんやつて思つ
て最近は生きてる

(13) BKDええこと言ってたからな

さらに、話題の開始部分で「名詞+(の)サ」「あのサ」の形で以下の使用が見られた。

(14) 今のサークルさ、体験会1回も行かずに入ったのだいぶ面白いなとふと思った
笑

(15) あのさ、ピエールマルコリーニっていう美味しいチョコレートのお店があつ
て！！

関西若年層の話しことばにおける間投助詞の標準語形「サ」と方言形「ナ」を記述した芝本 (2022) は、新たな話題を切り出す場面では「ナ」が使われると指摘した。XKD も話しことばの話題の開始部分では「ナ」を使うが、LINE では上の (14) (15) のように「サ」を用いており、話しことばとの違いが見られた。これまでの記述から「ネ」も含めて間投助詞についてまとめると、文末で自分のターンを終了する場合は方言形「ナ」、発話を続ける場合

は標準語形「ネ・サ」、話題の開始部分では標準語形「サ」という使い分けがある。

4.2.3. 「ヨ」

次に、終助詞「ヨ」は以下の（16）のように、形容詞「いい」「ええ」に後続する形が多く見られた。一方、対応する方言形「デ」を含む「いいデ」「ええデ」の使用はなかった。

（16）ぜんっせんまた今度でも良いよ！

また、「いいヨン」の形での使用も見られ、その他、「行けるヨン」「思うヨン」など、以下の（17）のような使用が確認できた。このような使用も方言形「デ」には見られなかった。

（17）昼ごはんだけ食べようよん！

4.2.4. 「ナイ」

最後に、動詞否定形式の標準語形「ナイ」について注目したいのは、一段動詞の2拍語の否定形式には、必ず「ナイ」が選択され、方言形の使用が見られなかつたことである。本データで使われた2拍の動詞、たとえば「来る」の標準語形否定形式「来ナイ」は画面上で1回で正しく変換されるが、方言形の否定形式「来ン・来おヘン・来いヒン」は動詞の語幹の漢字と方言のひらがな表記が正しく変換されにくい。そのため、文字入力の誤変換が起きないように、一段動詞の2拍語の否定形式では「ナイ」が必ず選択されるのだと考える。

以上、本節では、話すことばでは方言だがLINE上では標準語を用いる定型的な表現を示した。次節では、LINEチャット内部で起こる方言から標準語への切り換えを記述する。

5. 標準語と方言の切り換え

本節では、LINEチャット内部で方言から標準語へと切り換わる場合について述べる。

XKDが標準語にシフトする要因は2つあり、1つ目が会話相手の使用方言、2つ目が特定の発話内容である。以下、5.1節と5.2節でそれぞれについて説明する。

5.1. 会話相手別に見た各調査項目の使用状況

本節では、会話相手別にXKDの標準語形・方言形の使用状況を見ていく。まず、各調査項目の標準語形・方言形の全体の使用数と使用割合を記載したのが以下の表5である。対AKD・BKDの両場面で標準語形使用割合は30%前後、方言形使用割合は70%前後という結果から、XKDは京阪方言話者に対して基本的に方言を用いることが分かる。一方で、CSLとの会話では標準語形47%、方言形53%と使用割合が拮抗していた。ここから、会話相手が標準語話

表5 標準語形と方言形の全体の使用数と使用割合

	XKD		会話相手	
	標準語形使用数	方言形使用数	標準語形使用数	方言形使用数
対AKD	97(27%)	264(73%)	51(18%)	226(82%)
対BKD	83(32%)	177(68%)	61(25%)	179(75%)
対CSL	166(47%)	186(53%)	189(78%)	53(22%)
合計	346(36%)	627(64%)		

京都方言話者の LINE のことば

者であることが XKD の標準語使用が増加する要因であると言える。以下、会話相手が京阪方言話者の場合と標準語話者の場合に分けて調査項目の使用状況を記述する。

5.1.1. 京阪方言話者に対する切り換え

まず、会話相手が京阪方言話者の場合について、XKD の各項目の使用割合を図 2 に示す。対京都方言話者 AKD と対大阪方言話者 BKD で使用状況に大差がないことから、両者を XKD 自身と同じ方言話者だと捉えて、方言が基本のやり取りを LINE 上で行っていることが分かる。

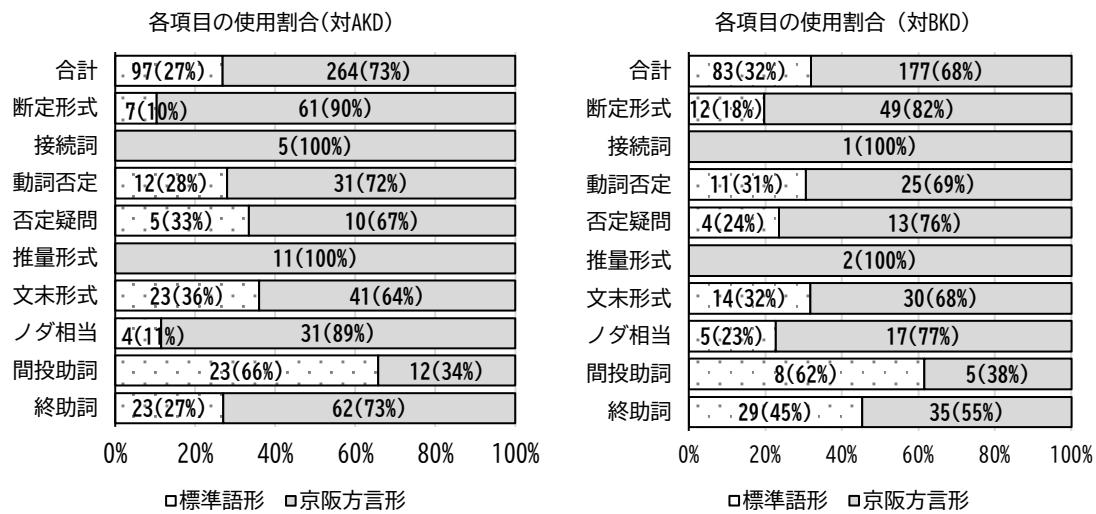


図 2 京阪方言話者に対する各項目の使用割合

5.1.2. 標準語話者に対する切り換え

続いて、会話相手が標準語話者の場合の XKD の各項目の使用割合を図 3 に記す。

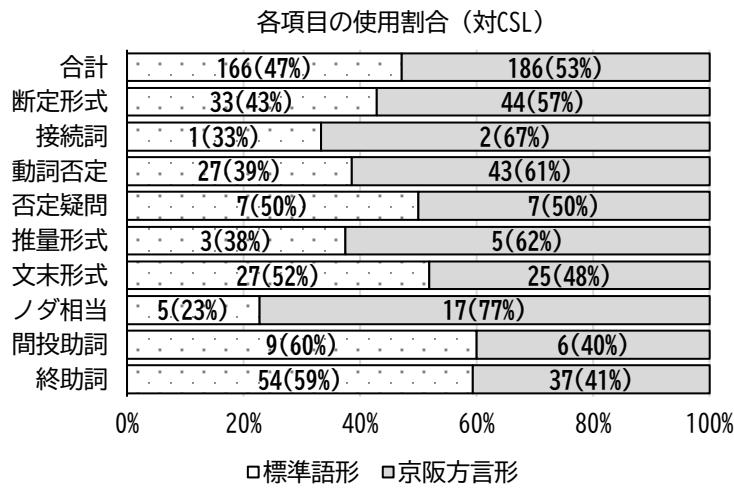


図 3 標準語話者に対する各項目の使用割合

図から、対京阪方言話者と比べて対標準語話者の場合は、XKD の標準語の使用数や使用割合がほとんどの項目で増えており、標準語と方言の全体的な使用割合も同程度であることから、XKD が CSL の標準語使用に影響を受けることが確認できる。これら CSL に対する標準語使用には、CSL が標準語話者だというイメージや CSL の実際の標準語使用に作用されたものと、XKD が意図的に標準語を用いたものの 2 種類があった。後者の意図的な使用については 5.2.2 項で詳しく取り扱う。前者の標準語使用例は以下の (18) (19) の通りであり、相手の標準語使用につられて XKD も標準語を用いるようになる場面が多く見られた。

(18) (遊びの集合時間について)

- 1 CSL : 明日 12:30 に梅田でいいー？
- 2 CSL : 多分並ぶだろうから XKD あとから合流してくれればいいよん
- 3 XKD : 12:30 絶対余裕だわ！！
- 4 XKD : ありがとうそれでいいよん！

(19) (遊びの集合場所について)

- 1 CSL : ごめん今から出るね！
- 2 XKD : 全然良いよ！！
- 3 XKD : ローソン前いるね！

以上、本節では、AKD・BKD は京阪方言話者、CSL は標準語話者だという相手に対する XKD のイメージや、相手の実際の標準語使用が、LINE における XKD のスタイルに大きく影響をしていることを確認した。次節では、発話内容に基づく標準語への切り換えを記述する。

5.2. 発話内容別に見た各調査項目の使用状況

続いて本節では、XKD のもう一つの切り換え要因である発話内容について、対京阪方言話者と対標準語話者の場合に分けて分析する。

5.2.1. 京阪方言話者に対する切り換え

京阪方言話者との LINE 上で、XKD は約 70% の割合で方言を用いていたが、AKD・BKD と同じ方言を共有しているのに、標準語使用が一定数見られたことは注目すべきである。4.2 節の定型的な形式を除いた、意図的な標準語使用は、以下の表 6 の発話内容に分類される。

表 6 京阪方言話者に対して標準語を用いた発話内容の内訳

場面	対 AKD		対 BKD		XKD の合計使用数	
	標準語	京阪方言	標準語	京阪方言	標準語	京阪方言
①引用	5	2	5	0	10	2
②冗談	10	14	10	13	20	27
③感想	18	28	16	15	34	31
④願望	7	6	6	3	13	9
⑤打ち明け	6	0	4	0	10	0
⑥懸念	9	0	2	0	11	0
⑦その他	4		5	0	9	0
合計	59	50	48	31	107	69

表中の①引用は、XKDの自発的な使用ではなく、第三者の標準語使用をそのまま繰り返したものであった。よって、本項では①引用を除き、②～⑥について記述する。5つの発話内容における標準語の使用理由・効果には以下の(A)・(B)の2つが考えられ、それぞれ場合分けすると、(A) 標準語話者になりきって普段の方言と差別化し、ふざけていることを明確に伝えるためが②冗談、(B) 発話内容を和らげ、相手に押し付けていないことを表現するためが③感想・④願望・⑤打ち明け・⑥懸念となる。以下、方言の例と比べながら記述する。

(A) 標準語話者になりきって普段の方言と差別化するため

②冗談

まず、普段の京阪方言と差別化することで、冗談を言っていることを相手に伝わりやすくするための(20)のような標準語使用が見られた。(21)に京阪方言での使用例を挙げる。

(20) (AKDが法律の勉強に苦戦していることについて)

1 AKD: こちらが一生懸命理解しようと歩み寄っているのに当の法律側は「俺のこ
と理解してみろよ(どーん)」みたいな感じなのほんまゆるせん

2 XKD: 歩み寄ってるのがえらいわ笑

→3 XKD: まあ法律は斜に構えた感じするよね(すんません何も知りません笑)

(21) (共通の友人BのLINEの面白かった発言について。XKDとBのLINEのトーク画
面を送った後)

1 XKD: Bの突然のグレープフルーツ食べられるようになった発言

2 BKD: 文脈なさすぎて草

→3 XKD: 勉強しすぎであんま人と会話してないんぢゃう笑

上の2例を比べると、方言の場合は悪口や揶揄に近い冗談であることが分かる。また、この発話を標準語を用いた「勉強しすぎであんま人と会話してないんぢゃない笑」の形にすると、本心で思っているようなきつい印象を受けるため、方言が選択されたと考える。一方、標準語での冗談は、悪口ではなく、法律に詳しい標準語話者になりきった(20)のように、自身とは異なるキャラを演じる使い方をしており、ここから、方言話者は「方言コスプレ」³⁾(田中2011)の逆の現象のように標準語を用いていると考えられる。加えて、発話中の「(す
んません何も知りません笑)」のように、XKD当人以外の人物になりきった冗談の後に、「()」の中で突っ込むなどコメントを付けるという構成にすることで、当該の発話が冗談であることを明示していた。一方、方言の場合は文末に「笑」を多用して冗談であることを示しており、冗談の内容やそれを明示するための方略の点で両者に違いがあることが分かった。

(B) 発話内容を和らげ、相手に押し付けていないことを表現するため

続いて、方言よりも発話内容を柔らかく聞こえさせ、相手に押し付けていないことを表現するために標準語使用が見られた、③感想・④願望・⑤打ち明け・⑥懸念の場面を分析する。

3) 「方言」を用いた「ことばのコスチューム・プレイ(コスプレ)」のこと(田中2011)。

③感想

まず、感想の発話では(22)のように、形容詞に標準語形「ヨネ」が続く形が多かった。

(22) (放送中のドラマについて。ナギサさんは登場人物の名前、大森さんは出演俳優の名前)

1 XKD: ナギサさん見てる?

2 AKD: 見てる見てる!

→3 XKD: 1話結構面白かった! 大森さんがいいよねえ

対応する方言形の「ヨナ」の使用と比べる。使用例は以下の(23)の通りである。

(23) (好きなお笑い芸人のネタ動画を BKD が送ってきた。ジャルジャルはお笑い芸人のコンビ名)

1 BKD: すき WWWWWWW

2 XKD: 私も好き

3 BKD: ジャルジャル演技うますぎ(笑)あの人らこわいぐらいうまい

→4 XKD: ジャルジャルうまいよなあ

上の例から、自分が先に感想を言う場合は「ヨネ」、相手が先に感想を述べてそれに同意する場合は「ヨナ」と分かる。標準語形「ヨネ」は方言形「ヨナ」よりも柔らかく、自分の意見を相手に押しつけずに伝えられるため、先に感想を言う際に使用されるのだと考える。

④願望

次に、願望の発話は、(24)のように「動詞+たい+標準語形ヨネ」の形が多く見られた。

対応する京阪方言形「ヨナ」が用いられた(25)の願望の発話と見比べる。

(24) (朝ごはんと一緒に食べに行く場所について)

1 AKD: ホテルのバイキング?(泊まってなくてもいける?)

2 XKD: 泊まってなくてもいけるけど、今どこのホテルもビュッフェ中止っぽいわ

→3 XKD: フレンチトーストとか食べたいよね(突然)

→4 XKD: でも和食も食べたいよね

(25) (飲酒が合法になることについて)

1 BKD: わかる合法で飲みたい~笑

2 BKD: 帰りにコンビニでお酒買って帰りたい笑

→3 XKD: バイト帰りのお酒は美味しいとか聞くからさ、したいんよなあ笑

上の2つの例を比べると、(24)の願望は、一緒に朝ご飯を食べる AKD を巻き込むが、(25)の願望は XKD の内で完結する。ここから、相手を巻き込む願望の場合は、相手に自身の願望を押しつけずに伝えられ、より柔らかく聞こえる標準語が選択されるのだと考える。

⑤打ち明け ⑥懸念

次に、⑤自身のマイナスなことを打ち明ける際に(26)、⑥未来の事態を懸念する場合に(27)のような標準語使用が見られた。これらの発話内容での京阪方言形の使用はなかった。

(26) (ご飯を食べるお店について)

- 1 BKD : 何系の気分?
 →2 XKD : 韓国料理はちょい苦手なのよね
 3 XKD : それ以外はなんでも!

(27) (ミュージカル観劇後の帰り方について)

- 1 XKD : 日帰りで行く??
 2 AKD : どうする? どっちでもいい!
 3 XKD : どしよか! 観光したい??
 →4 XKD : 計算したら 17:40 開始で上演時間 2 時間 45 分公演で、20:25 よね 終わるの
 →5 XKD : 新幹線で帰るなら どんだけ頑張っても京都駅に 23:30 とかになっちゃうね
 え

打ち明けの場合は自分の苦手な物事を言って相手に合わせてもらう必要があり、懸念を言う場合は未来の好ましくない事態を伝える必要があるため、どちらも相手にきつく聞こえてはならない。そのため、より柔らかく伝わる標準語が選ばれるのだと考える。

以上、本節では、京阪方言話者に対する標準語使用について、京阪方言の使用例と比較しながら分析した。次の項では、標準語話者に対する標準語使用について詳しく分析する。

5.2.2. 標準語話者に対する切り換え

次に、標準語話者に対する切り換えについて考察する。まず、対 CSL 場面では、XKD の京阪方言の使用も半数を占め、CSL に合わせて完全に標準語に切り換えるわけではないが、対京阪方言話者に比べて標準語使用は増えるという結果になった。以下、本節でも、4.2 節の定型的な形式と、5.1.2 項の CSL につられた使用を除いた、CSL に対する意図的な標準語使用を見ていく。標準語が使われた発話は以下の 8 つに分類され、その内訳を表 7 に示す。

表 7 標準語話者に対して標準語を用いた発話内容の内訳

	対 CSL	
	標準語	京阪方言
①引用	3	2
②冗談	32	9
③感想	18	25
④願望	2	3
⑤懸念	2	0
⑥確認	3	8
⑦感謝	3	0
⑧同意	24	36
合計	87	83

①引用～⑤懸念の発話については、対京阪方言話者の場合と同様の傾向が見られたため、この節では違いが見られた⑥確認、⑦感謝、⑧同意を取り上げる。これらの発話内容での標

準語使用理由として、以下の(B)～(D)が考えられる。3つの発話内容を場合分けすると、(B) 京阪方言を用いるよりも発話内容を和らげ、相手に押し付けていないことを表現するためが⑥確認、(C) 事態を客観的に描写するためが⑦感謝、(D) 会話の話題に重要さや真剣さを出すためが⑧同意となる。以下、京阪方言の使用例と比べて説明する。

(B) 発話内容を和らげ、相手に押し付けていないことを表現するため

⑥確認

まず、相手に確認する場合に、発話内容を和らげ、相手に押し付けていないこと表現するために(28)のような標準語使用が見られた。(29)が京阪方言の使用例である。

(28) (CSLがSNSで投稿した写真について)

→1 XKD: 髪の毛染めたよね?

2 CSL: え、うん

3 XKD: いい！とても

(29) (「振りテスト」の音源選びについて。「振りテスト」はサークルの班員を決めるオーディション)

1 CSL: なんか振りテストの音源候補ある？

→2 XKD: 去年たしか2×8やったよな？なんかキリいいのなくて、

3 CSL: えっツーエイトだっけ？！

4 CSL: ツーエイトでしたの笑笑

(29) から、方言の場合はXKDの中に不確かなことがほとんどなく、単に相手に同意を求めていることが分かる。一方で、標準語の(28)では、確認を得た上で、相手を褒めることに主たる目的がある。他には、サークルのメンバー選出について「女:男が2:1はだめよね?笑」などがあったが、ここでも不確かな事柄について相手から確かな情報を求めている。つまり、「ヨナ」が同意要求、「ヨネ」が確認要求という使い分けがあり、確認要求の際は、「ヨナ」よりも自分の意見を押しつけていないように受け取れる「ヨネ」が選択されるのである。

(C) 事態を客観的に描写するため

⑦感謝

次に、感謝すべき事態を描写するような方法で、(30)のような標準語使用が見られた。

(30) (CSLが要らなくなった新品の靴をもらうことについて)

1 CSL: サイズ合わなかつたら他の人にもらつてもらおう笑

2 CSL: 私は引っ越し前にこの靴無くなれば嬉しいから！

→3 XKD: おっけい！ほんとにありがとうだわ

一方、方言形の「ありがとうヤ(ワ)」の使用は確認できなかった。(30)で標準語形が使われた理由について、「ダ」が後続しない「ありがとう」を使用した以下の(31)と比較する。

(31) (サークルの練習時間について)

1 XKD: 土曜って午前からに変更になったっけ？

2 CSL: いえす！

→3 XKD：おけ！ありがとう！

(31) では、CSLの負荷はXKDの質問に答えるだけで比較的小さいのに対し、(30)はCSLの靴を無料でXKDがもらうため、一層感謝を表す必要がある。そのため、XKDは「ありがとう」に標準語形の断定形式「ダ」をつけることで、(31)のように直接感謝を述べるのではなく、「『ありがとう』と感謝すべき事態だと、事態を描写する形で感謝を伝えたのだと考える。

(D) 会話の話題に重要さや真剣さを出すため

⑧同意

最後に、重要さや真剣さを出して同意する場合に(32)のような標準語使用が見られた。

(32) (サークルの練習について。Cはサークルの先輩)

1 CSL：1番大変なのCさんだって考えたら

2 CSL：私が焦ってる場合じゃないって気づいた

→3 XKD：だよね、、、

同意には(32)のような定型句が多く見られ、他に「ダネ」「そダネ」などが使用されていた。この定型句は方言にもあり、下の(33)や「ヤンナ」「ヨナ」などの使用があった。

(33) (サークルの練習曲について。Dはサークルのメンバー)

1 CSL：マシになった！よね？

2 CSL：イントロのDやる気なさすぎわろた

3 XKD：なった！笑

→4 XKD：それな笑笑適當すぎわろ笑

上の話を比べると、方言の場合はほとんどの定型句に「笑」が後続するが、標準語の場合は「笑」が後に付くことはなかった。ここには同意する内容の違いが関係し、標準語はサークルの方針や予定などの重要な内容に同意する時に用いられるのに対し、方言は(33)のように相手がマイナスの事態を冗談めかして提示してきたことに同意する際に使われていた。

以上、本節では、XKDが標準語を用いた発話について、京阪方言形の使用と比較しながら使用理由・効果を4つに分類して記述した。この節まではLINEにおける標準語と京阪方言の切り換えについて述べてきた。次節では丁寧体と普通体の切り換えの分析を試みる。

6. 丁寧体と普通体の切り換え

本節では、LINEにおける普通体と丁寧体「デス」「マス」の切り換えについて、その要因と効果を記述する。XKDの丁寧体・普通体の使用状況は以下の表8の通りである。

表8 XKDの丁寧体と普通体の使用状況

	デス	普通体	マス	普通体	丁寧体合計	普通体合計
対 AKD	8(2%)	329(98%)	35(18%)	169(82%)	43(8%)	489(92%)
対 BKD	12(4%)	298(96%)	23(14%)	147(86%)	35(7%)	445(93%)
対 CSL	17(6%)	251(94%)	27(13%)	187(87%)	44(10%)	438(90%)
合計	37(4%)	878(96%)	85(15%)	494(85%)	122(8%)	1372(92%)

丁寧体の合計の使用割合が8%、普通体の合計の使用割合が92%という結果から、XKDは親しい友人とのLINEではほとんど普通体を用いることが分かる。また、会話相手による使用状況の差は見られないことから、丁寧体と普通体の切り換えには、相手に対する標準語話者・京阪方言話者だというイメージが作用しないことが指摘できる。このことから、本節では、会話相手別ではなく発話内容の点からXKDのアップシフトについて記述する。

親しい友人同士のやり取りにおいて、アップシフトが冗談やふざけとして行われるという大津（2007）の記述や、依頼、申し出・約束、了解、感謝、質問、挨拶、報告、謝罪、勧誘の9場面でアップシフトが発生するという橋谷（2018）の記述を参考に、本節ではアップシフトが起こる場面を、表9の9場面に分類する。内訳は以下の表の通りである。

表9 XKDが丁寧体を用いた発話内容の内訳

会話場面	対AKD			対BKD			対CSL			XKDの合計使用数		
	デス	マス	普通体	デス	マス	普通体	デス	マス	普通体	デス	マス	普通体
①依頼	2	1	1	0	1	2	2	0	1	4	2	4
②勧誘	2	5	5	3	1	6	1	2	0	6	8	11
③質問	0	0	31	0	0	46	2	0	33	2	0	110
④褒め	0	1	5	0	0	3	1	1	4	1	2	12
⑤申し出	1	5	5	1	6	5	1	7	3	3	18	13
⑥報告	1	14	23	4	12	26	2	8	16	7	34	65
⑦謝罪	0	0	13	0	0	5	1	0	6	1	0	24
⑧冗談	2	6	32	3	3	25	7	8	51	12	17	108
⑨感謝	0	1	5	0	0	21	0	0	8	0	1	34
⑩その他	0	2		1	0		0	1		1	3	
合計	8	35	120	12	23	139	17	27	122	37	85	381

上記の発話で丁寧体を用いるのは、以下の(E)～(G)の3つの効果が生じるからである。9つの発話内容を場合分けすると、(E) 丁寧度を上げるのが①依頼・②勧誘・③質問・④褒め、(F) 発話内容を和らげるのが⑤申し出・⑥報告・⑦謝罪・⑧冗談、(G) 会話のリズムを保つのが⑨感謝となる。以下、6.1～6.3節で普通体の使用例と比べながら考察する。

6.1. 丁寧度を上げるためのアップシフト

まず、発話内容の丁寧度を上げるために、①依頼・②勧誘・③質問・④褒めの発話内容で丁寧体の使用が見られた。4つの発話内容それぞれについて分析する。

①依頼

依頼の場面では、下の(34)の例のように、既に決まっていた予定を別日にずらしてもらうという、相手に負担をかける場面で丁寧体の使用が見られた。

(34) (夜ご飯の予定の変更について)

1 XKD：ごめんカフェのバイトの面接が9/21しか空いてないっぽくて、、、

→2 XKD：ご飯の日にちずらして頂けませんか?

3 XKD：夜なら 20.22.23.26.28 空いてる。ほんまにごめん、

他には、「(CD を) 借りれそうならおなしゃすです」などの使用例があり、いずれも相手に負担をかける依頼を行う際に、より丁寧度を高めるために丁寧体に切り換えていた。一方、普通体の依頼場面では、「おけ！ 私 E に聞くから F 空いてるか聞いてもらってもいいー？？」(E と F は共通の友人) などの使用が見られたが、ここでは、XKD 自身も共同で依頼内容の負担を担っており、相手に求める丁寧さが下がるため、普通体が選ばれたと考える。

②勧誘

次に、勧誘については、(35) のような丁寧体の使用例が見られた。

(35) (遊びの予定について)

→1 XKD : AKD、16 のお昼空いてますか！ 踊りましょう！

2 AKD : わたし、16 バイトの研修やねん。踊りたかったー。

3 XKD : おーまいが

対して、普通体での勧誘は「(演劇鑑賞について) 2 月行きたい！ どうぞ！」などがあつたが、ここでは以前に舞台が開幕したら一緒に観に行く約束をしていたため、相手が誘いを受けることを XKD は予測できた。一方、予測できない (35) のような場面では、相手の予定を聞き、自分の用事に誘う行為に求められる丁寧さから、アップシフトが行われていた。

③質問

次に、質問の発話については以下の (36) のような丁寧体の使用が見られた。

(36) (サークルの先輩に送るアルバムで使う XKD の写真について)

1 XKD : [写真を 2 枚送る]

→2 XKD : あと、どっちがいいですか！！

3 CSL : 両方好きだけど左で！

上の例では XKD の写真を選ぶ手間を相手に取らせる意識から丁寧体が選択された。質問の発話は丁寧体が 2 例、普通体が 110 例であったため、質問は基本的に普通体で行われる。普通体の質問の例は「(映画を見る時間が) 一番下かな？」や「(料理教室に) 何持つてけばいい？」など様々だったが、相手に負担をかけるために丁寧であるべき発話は見られなかつた。

④褒め

次に、相手を褒めるときに以下の (37) の発話で丁寧体の使用が 2 回見られた。

(37) (こいややはサークルの大会の名称)

1 CSL : こいやまで減量するわ笑

→2 XKD : もう十分細いですよ

→3 XKD : ストイックさ尊敬します

普通体の褒めの例の「AKD すごい肯定してくれるから好き」や「ちょっと待って調味料は考えてなかった笑笑さすが」などと比べると、(37) は丁寧さを添えることで、褒める内容

が嫌みや冗談ではなく本心であることが相手に伝わりやすくなる効果があると分かる。

6.2. 発話内容を和らげて伝えるためのアップシフト

次に、発話者の負担や話題を和らげて伝えるために、⑤申し出・⑥報告・⑦謝罪・⑧冗談の発話内容で丁寧体の使用が見られた。4つの発話内容それぞれについて分析する。

⑤申し出

まず、申し出の場面では、(38)のような丁寧体使用が見られた。

(38) (観劇する公演のチケット予約について)

1 XKD : 26 は夜が比較的空いてるんやけど、夜でもいい？？

2 AKD : いいよん！

→3 XKD : おっけい予約しますー！

予約の場面の他には、サークルの踊りの出来について「個人の改善点みんなに送った方がええかな？送ります！」などの使用が見られた。一方で、普通体の申し出には「名古屋グルメ探しとくわ！笑」や、「おっけ！また連絡する！」などが見られたが、これらと比較すると、丁寧体の場合は申し出る内容における XKD の負担が大きく見受けられる。ここから、XKD 自身の負担内容を軽減して相手に伝えるためにアップシフトが行われたと考えられる。

⑥報告

次に、報告の場面では、以下の(39)のような丁寧体使用が見られた。

(39) (友人がバイトの店長と仲直りしたことについて。仲直りを雨降って地固まると表現している)

1 BKD : 私バイトで地固める気ならへんもん

2 BKD : 雨降ったらやめる

→3 XKD : 雨降ってないけどウエディングのバイトやめました笑

4 XKD : 4月から行ってなかったけど、今日やっとしれっとグループ退会した笑

丁寧体の報告の発話に共通するのは、発話内容がマイナスな事柄だという点である。他にも、「バレーボールずっと死んでました笑」や「今日早速雨降ってなえましたー」のように、マイナスな内容を丁寧体で和らげる使用が見られた。それ以外の報告には普通体が用いられ、「人生で初めてイヤーカフ買った」や「もう電車乗った！」など多様な例が確認できた。

⑦謝罪

次に、自身の過失で相手に迷惑をかける(40)のような謝罪場面でも丁寧体が使われた。

(40) (CSL から XKD は新聞を持ってくるよう頼まれていた)

1 XKD : ちょっと待って！新聞忘れた😭

2 XKD : バス乗ってもーたー😭

→3 XKD : ごめんなさいですまじで😭😭

4 CSL : おけ！頼んだの私だし大丈夫！

(40) では「ごめん」より丁寧さが増す「ごめんなさい」単独の使用ではなく、「ごめんなさい」に「デス」が後続する形式で使用されている。この場面では XKD に落ち度があるものの、元々は CSL の頼み事に XKD が応える関係だったため、「ごめんなさい」を単独で使うと深刻さが出ることから、「デス」を付けて文体を軽くしたのだと考えられる。

⑧冗談

続いて、冗談の発話については、下の (41) のような丁寧体使用が見られた。

(41) (直前の AKD の返信が朝 4 時台に行われたことを受けて)

- 1 XKD : 安定の遅寝 AKD ちゃん
- 2 AKD : 遅寝やめたいよータスケテ
- 3 XKD : 自己管理ですね(辛辣)
- 4 AKD : はいその通りです(擊沈)

普通体の冗談は、スタンプを送った後の「これは送られてきた人全員の気持ちを温かくするスタンプ♪」のように、普通体のままでも冗談だと伝わりやすいものばかりであった。対して、(41) を仮に普通体の「自己管理だね／やな」にすると、発話内容が XKD の本心であると相手が受け取る可能性があるため、丁寧体を用いてふざけた発言にしたと考えられる。

6.3. 会話のリズムを保つためのアップシフト

⑨感謝

最後に、感謝の場面では (42) のような会話のリズムを保つための丁寧体使用が見られた。

(42) (AKD がサークルの幹部を務めていることについて)

- 1 XKD : 私最近責任という責任全てから逃れたい欲がすごいから笑
- 2 XKD : 尊敬しておりますわ
- 3 AKD : いやめちゃくちゃわかる笑
- 4 AKD : 責任を負わない人生がいい😊
- 5 AKD : こちらこそでございます
- 6 XKD : ありがとうございます

(42) は、XKD の「尊敬しておりますわ」を受けて、AKD が丁寧体で返答し、XKD が「ありがとうございます」と答えるというように、両者が互いの丁寧体に合わせている。なお、この例では、「ありがとうございます」ではなく「ありがとうございます」が選択されたことから、文体を相手に合わせてリズムを保つためのアップシフトであったことが分かる。

以上、本節では、普通体から丁寧体に切り換えが見られた発話について、発話内容に基づいて分類し、普通体の使用例と比較しながら丁寧体の使用理由・効果について分析した。

7. 考察

以上、6 節までは、XKD の LINE 上での、方言・標準語・丁寧語の使用実態をデータに基いて記述した。本節では、これまでの記述を踏まえて、7.1 節で LINE における方言・標準語・丁寧語の 3 つのスタイルの役割を XKD がどのように捉えているのかについて、続く 7.2 節

で 2 節に挙げた先行研究と比較した際の 3 つのスタイルの効果について言及する。その際、4.2 節で挙げた定型的な標準語使用や、5.1.2 項で挙げた CSL につられた標準語使用は、XKD のことばに対するイメージが関わらない使用であるため、除いて考察するものとする。

7.1. 調査結果から分かる京都方言話者にとっての各スタイルの役割

まず、方言から標準語、普通体から丁寧体へシフトする際の XKD の意識をまとめる。XKD は方言から標準語に切り換える際には別のスタイルにシフトするという意識を持っている。アップシフトについても同様であり、それは、「ですヤン」「ますデ」など「丁寧語+方言形」の形式は存在するものの、文字チャットの場合はアクセントがなく、丁寧語を使うと方言を出しにくいという意識が強く働くからである。つまり、LINE 上では、標準語も丁寧語も、普段用いる京阪方言とは異なることばだと XKD は捉えているのである。

次に、この切り替えの意識を踏まえた上で、親しい友人との話しことばでは普通体の方言を用いる XKD がなぜ LINE チャット上では 3 つのスタイルを使うのかについて、渋谷(2022)を参考に考察する。渋谷は、言語使用者は、自身で使用する言葉ではないが、他者が使用するのを聞いてそこに焼き付いている社会情報を理解することができる言語形式を幅広く持っていて、自在に使用面に転換することができると述べており、通常は理解するだけで使用しないスタイルおよびその構成要素を「潜在的スタイル」と呼んでいる。また、文章語では発信者と受信者との間で情報伝達が可能である範囲において多様化に向かう力が強いとも述べていた。以上を XKD の LINE のことばに当てはめると、まず、XKD には、京阪方言・標準語・丁寧語という 3 つのスタイルがストックされており、親しい友人には通常使用しない標準語と丁寧語は「潜在的スタイル」に含まれる。話しことばでは京阪方言を用いる XKD が、LINE 上でこれらの「潜在的スタイル」を使用する理由には、文章語では多様化に向かう力が相対的に強いという渋谷の指摘が当てはまると考えられる。つまり、LINE 上では、話しことばとして普段用いる方言だけでなく、XKD と会話相手 AKD・BKD・CSL が理解可能な標準語・丁寧語を加えた 3 つの言語形式の範囲内で、XKD は自由にスタイルを選択することが可能なのである。そのため、方言では表現しきれない発話をを行う場合には標準語や丁寧語に気軽に切り換えることができ、基本的には方言でやり取りを行う中でも、会話相手や発話内容に応じて標準語や丁寧語に切り換えることで、当該の発話を際立たせているのである。

最後に、方言・標準語・丁寧語の 3 つのスタイルそれぞれの役割について考察する。まず、XKD の母方言の京阪方言で注目したいのは、標準語や丁寧語の発話は文末に記号がついていないことが多いのに対し、方言にはほとんどの発話の最後に「笑」がついていたことである。これには、京阪方言は文字にした時にきつく受け取られやすいため、「笑」をつけてことばの印象を和らげようとする意識が関わっていると考える。加えて、京阪方言を用いる発話の多くを XKD は面白みがあると感じているため、文の最後に「笑」を付ける癖があることも指摘できる。この意識は標準語と丁寧語には抱いていないものであり、おかしなことを言う関西人である自分を LINE 上でも表現できることばとして京阪方言を捉えていることが分かる。

続いて、標準語と丁寧語について、XKD はこの 2 つを自身の京阪方言とは異なり、かつ標準語と丁寧語もそれぞれ別のスタイルだと認識している。その違いについて考察する。まず、

これまでの分析の中で、標準語には以下の 4 つの効果があると記述した。

- (A) 冗談の発話でふざけていることを明確に伝えられる
- (B) 感想・願望・打ち明け・懸念・確認の発話内容を柔らかく聞こえさせ、相手に押し付けていないことを表現できる
- (C) 事態を客観的に描写する形で感謝を伝えられる、
- (D) 同意の発話の際に話題に真剣さや重要さを出すことができる

まず、(B) の効果から、京阪方言を使用した際に文字から伝わる発話者の感情を抑え、きつく聞こえやすい発話内容を和らげられることはだと標準語を認識していることが分かる。また、(C)・(D) からは、事態を客観的に捉えて、冷静に一般論的に発話内容を伝えられることばだと標準語を捉えていると言え、標準語を借りて主観から離れた、自分以外の人物になりきるという点で、(A) 冗談の際にも標準語が効果的に用いられるのだと考える。

次に、丁寧語については、以下の 3 つの効果があると述べた。

- (E) 依頼・勧誘・質問・褒めの発話の丁寧度を高くできる
 - (F) 申し出・報告・謝罪・冗談の発話の際に発話者の負担内容や話題の深刻さを和らげて伝えられる
 - (G) 感謝の発話の際に会話のリズムを保つことができる
- (E) の効果からは、言い回しを丁寧にできることばだと丁寧語を捉えていることが分かる。また、(F)・(G) に共通するのは、発話の印象を軽くする効果があるという点である。(F) 申し出・報告・謝罪・冗談の場合は発話者の負担や話題の深刻さを和らげ、(G) 感謝の場合は文体にリズムを生み出せることばとしてアップシフトを行っている。

これらの発話内容に基づく切り換えを踏まえて XKD が LINE において方言・標準語・丁寧語がどのようなものとして捉えているかをまとめると、以下のようになる。

- (a) 京阪方言：LINE 上でも普段の話しことばと同じように、京都方言話者として愉快なやり取りができることば。
- (b) 標準語：方言使用の際に文字から伝わる感情を抑え、きつく聞こえやすい発話内容を和らげられることば。冷静で客観的・一般論的な発話を可能にする。
- (c) 丁寧語：発話の丁寧度を上げることができることば。方言（普通体）使用で生じる深刻さを和らげ、発話の印象を軽くすることができる。

このように、XKD は自身が持つ 3 つのスタイルを、LINE チャット上でそれぞれ異なる役割を担うものと捉えており、表現内容に合わせて適切なスタイルを選択しているのである。

7.2. 先行研究との比較から分かる京都方言話者にとっての各スタイルの役割

本節では、7.1 節の考察と、2 節に挙げた三宅（2018）、大津（2004）、橋谷（2018）の記述とを照らし合わせて、方言・標準語・丁寧語の各スタイルの役割について整理する。

まず、SNS における方言使用について、三宅（2018）は、方言話者は自身の方言を「自分らしさ」や「親しさ」の表象として使用しており、親しい相手には同郷ではなくとも方言を用いるとしていた。XKD も自身の京阪方言を「LINE 上でも普段の話しことばと同じように、京都方言話者として愉快なやり取りができることば」と捉えていることから、関西人とし

ての「自分らしさ」を表現できることばとして方言を使用していると言える。また、出身の異なる標準語話者 CSL に対しても XKD は方言でやり取りを行っており、同郷でなくとも親しい相手には方言を使うことで、LINE 上で親密な雰囲気が作れていると認識しているので、「親しさ」の点でも XKD の方言に対する意識は三宅の記述と一致している。

次に、大津（2004）は、話しことばの冗談におけるアップシフトでは、話し手が当該の会話場面にはない要素を聞き手にイメージさせることで、発話にユーモラスな意味を付与すると述べていた。しかし、XKD の場合は、冗談の発話におけるこの役割は丁寧語ではなく標準語が担っていると考える。5.2 節と 6.2 節で述べた、LINE 上での丁寧語と標準語の冗談の発話を整理すると、まず丁寧語は、普通体を用いると本心で酷いことを言われたように相手が受け取ってしまう内容を和らげて、ふざけたものにするために使用されていた。一方、標準語は、「方言コスプレ」（田中 2011）の逆の現象のような使い方、つまり XKD 当人以外の人物になりきる形で冗談を発話する際に用いられていた。これらのことから、大津（2004）が述べていた、冗談の場面における別人・他場面を想像させる丁寧語の役割は、若年層京都方言話者の LINE においては標準語が担っていると言えるだろう。

続いて、関西方言話者の LINE 上のアップシフトを研究した橋谷（2018）では、丁寧語が担うネガティブ・ポライトネス・ストラテジーの機能が指摘されていた。本研究でも、XKD は依頼・勧誘・質問を行う場合は、当該の発話中の会話相手の負担を発話の丁寧度を上げることで軽減しており、申し出・報告・謝罪・冗談を言う場合は、深刻な発話内容を和らげるためにアップシフトを行っていた。これらのことから、丁寧語の機能に関する橋谷（2018）の記述と、XKD が認識する丁寧語の役割は一致していると考えられる。

以上、本節では、XKD が京阪方言・標準語・丁寧語の 3 つのスタイルをどのように捉えているのかについて、2 節に挙げた先行研究を基に考察した。三宅（2018）や橋谷（2018）の記述は本研究の結果と合致していたが、大津（2004）が述べた話しことばでの丁寧語の役割は、XKD の LINE 上では標準語が担うという相違点があった。これは、方言から丁寧語にシフトするよりも方言から標準語に切り換えた方が、京阪方言の場合は別人・他場面を会話相手に想像させやすいからだと考える。しかし、大津が調査対象とした東海地方との使用方言の違いだけでなく、話しことばと LINE という会話場面の違いが丁寧語の働きに影響している可能性もあるため、今後データを集めて分析する必要があると思われる。

8. まとめと今後の課題

以上、本稿では、京阪方言と標準語の切り換えと、普通体と丁寧体の切り換えという 2 つの観点から、親しい友人との LINE における京都方言話者 XKD のことばを記述した。調査結果からは、まず、XKD は基本的には京阪方言を用いて普通体で親しい相手とやり取りを行うことが分かった。ただし、以下の場合には標準語や丁寧語の使用が増える。

- ・ 間投助詞「ネ」「サ」、終助詞「ヨ」「ネ」、動詞否定形式「ナイ」については必ず標準語を用いる形式がある。（4.2 節）
- ・ 会話相手が標準語話者の場合には標準語への切り換えが増える。（5.1 節）
- ・ 発話内容が引用・冗談・感想・願望・打ち明け・懸念・確認・感謝・同意の場合に

は標準語に切り換えが起きる（5.2 節）

- ・ アップシフトには会話相手ではなく発話内容が関係し、発話内容が依頼・勧誘・質問・褒め・申し出・報告・謝罪・冗談・感謝の場合に、丁寧体にシフトが起きる。
(6 節)

これらを踏まえると、3つのスタイルに対する XKD の捉え方は以下のようになる。（7 節）

- (a) 京阪方言：LINE 上でも普段の話しことばと同じように、京都方言話者として愉快なやり取りができることば。
- (b) 標準語：方言使用の際に文字から伝わる感情を抑え、きつく聞こえやすい発話内容を和らげられることば。冷静で一般論的な発話を行うことを可能にする。
- (c) 丁寧語：発話の丁寧度を上げることができることば。方言（普通体）使用で生じる深刻さを和らげ、発話の印象を軽くすることができる。

また、7.2 節の大津（2004）との比較の際には、方言から丁寧語にシフトするよりも方言から標準語に切り換えた方が、京阪方言の場合は別人・他場面を相手に想像させやすいことにも触れた。つまり、XKD は丁寧語よりも標準語の方が普段の方言とは異なるスタイルだという意識を強く持っており、標準語使用はより有標なものだと捉えているのである。

以上のように、LINE チャット上で、京都方言話者 XKD は普段使用する京阪方言に加えて、「潜在的スタイル」として有する標準語や丁寧語それぞれに別の役割・効果を見出し、スタイルを切り換えることで、文字によるカジュアルなコミュニケーションを行っている。

一方、本論文では、次のようなことが課題として残された。まず、本稿で示した京都方言話者の LINE のことばの特徴は、使用することばの切り換えという点からその特徴の一部のみを記述したものだということである。また、本研究は筆者個人のケーススタディであり、他の京阪方言話者でも同様のことが言えるか、もしくは違う特徴が見られるのか不明な点が多い。これらについてはデータを増やし、さらなる分析を行うことを今後の課題としたい。

【参考文献】

- 宇田萌美（2017）「母方言・移住先方言・標準語のスタイルシフトの実態」『阪大社会言語学研究ノート』15, pp.1-21, 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室.
- 大江元貴（2017）「間投助詞の位置づけの再検討—終助詞との比較を通して—」『語用論研究』19, pp. 90-99, 日本語用論学会.
- 大津友美（2007）「会話における冗談のコミュニケーション特徴—スタイルシフトによる冗談の場合—」『社会言語科学』10, pp. 45-55, 社会言語科学会.
- 上林葵（2020）「関西若年層のカジュアル談話にみるスタイルの運用—首都圏移住者を事例として—」『阪大日本語研究』3, pp. 37-61, 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座.
- 熊谷智子・篠崎晃一（2006）「依頼場面での働きかけ方における世代差・地域差」国立国語研究所編『言語行動における「配慮」の諸相』pp.19-54, 国立国語研究所.
- 芝本彩乃（2022）「関西若年層における間投助詞の使用実態—「サ」と「ナ」の機能に注目して—」『阪大社会言語学研究ノート』18, pp. 98-118, 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室.

- 渋谷勝己 (2022) 「スタイルを組み込んだ文法研究—ことばに働く2つの力に注目して—」『日本語文法』22-2, pp.121-136, 日本語文法学会.
- 白坂千里 (2017) 「方言話者の携帯メールのことば—電話のことばと対照して—」『ことばと文字』8, pp.24-35, 日本のローマ字社.
- 高木千恵 (2004) 「若年層関西方言の否定辞にみる言語変化のタイプ」『日本語科学』16, pp.25-46, 国立国語研究所.
- 田中ゆかり (2011) 『「方言コスプレ」の時代—ニセ関西弁から龍馬語まで—』 pp.14-38, 岩波書店.
- 鳥谷善史 (2015) 「関西若年層の新しい否定形式「～ヤン」をめぐって」『国立国語研究所論集』9, pp.159-176, 国立国語研究所.
- 橋谷萌賀 (2018) 「ポライトネスの観点から見る関西方言話者のLINEにおける言語行動—スピーチレベルシフトを中心に—」『日本学報』117, pp.41-60, 韓国日本学会.
- 松丸真大 (2007) 「関西方言のヤンナとヨナ」『阪大日本語研究』19, pp.1-15, 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座.
- 三宅和子 (2018) 「SNSにおける方言使用の実態—エセ方言はいつ、誰に使うのか—」『文学論藻 東洋大学文学部紀要日本文学文化篇』92, pp.42-62, 東洋大学文学部日本文学文化学科.
- 三宅和子 (2019) 「LINEにおける「依頼」の談話的特徴を記述・分析する（1）—メディア特性とモバイル・ライフの反映を探る—」『文学論藻 東洋大学文学部紀要日本文学文化篇』93, pp.92-110, 東洋大学文学部日本文学文化学科.
- 村上信夫 (2018) 「スマホ利用による若者のコミュニケーションの変容（上）—SNSは若者の感性を変えたのか—」『茨城大学人文社会科学部紀要 人文コミュニケーション学論集』2, pp.145-167, 茨城大学人文社会科学部.

はせがわ さとり（大阪大学卒業生）